



# どがどがど 木田市です!!

大田市ふるさと  
情報誌

★ 創刊号のテーマ

## 「誕生」

**VOL.1**  
**2005.12**

- 新大田市の誕生にあたって…………… p2
- 官・民の取り組み～石見銀山協働会議…………… p3
- 巧みな技で鍍絵こてえを創作  
松浦満幸さん(仁摩町)…………… p4
- 念願のカフェをオープン  
小川知興さん(温泉津町)…………… p5
- 起業家が誕生～みんなで地域産業に活力を… p6
- 時の祭典、シリーズ⑧石見銀山…………… p7
- ふるさとは今、イベント情報他…………… p8

# 新大田市の誕生にあたって



大田市長

## 竹腰 創一

10月1日、旧大田市、温泉津町、仁摩町が合併し、新大田市が誕生いたしました。

ひとえに、住民の地域の発展を願う情熱と、先輩諸氏のたゆまぬご努力とご協力の賜物であります。

このたび、新大田市の初代市長として市政を担当することとなり、誠に光栄に存じますとともに、旧1市2町の融和と各地域がともに光り輝く新しいまちづくりに全身全霊を傾けてまいりたいと存じます。

さて、発足いたしました新大田市は、島根県の中央部に位置し、人口約4万1千人、面積約436

km<sup>2</sup>となり、国立公園三瓶山や46kmにも及ぶ海岸線、そして世界遺産登録を目指す石見銀山遺跡など、豊かな自然と歴史に育まれ、魅力ある地域資源を数多く有する地域であります。

新大田市は、合併協議を重ねる中で策定されました『新生「大田市」まちづくり推進計画』に基づき、「自然・歴史・ひとが光り輝くだれもが住みよい 県央の中核都市」を将来像として、石見銀山遺跡をシンボルに、地域の特性を活かしながら、まちづくりを推進してまいります。

石見銀山遺跡につきましては、先ごろ、政府において正式に世界

遺産推薦を行うことが決定され、平成19年度には世界遺産に登録されるものと住民ともども期待をいたしております。

世界遺産にふさわしい遺跡の保存と活用に努めるとともに、この機をチャンスと捉え、三瓶山、温泉津の温泉街、仁摩サンドミュージアムなど多彩な観光資源・施設を有機的に結び付けるなど、魅力ある観光地づくりを進めてまいります。

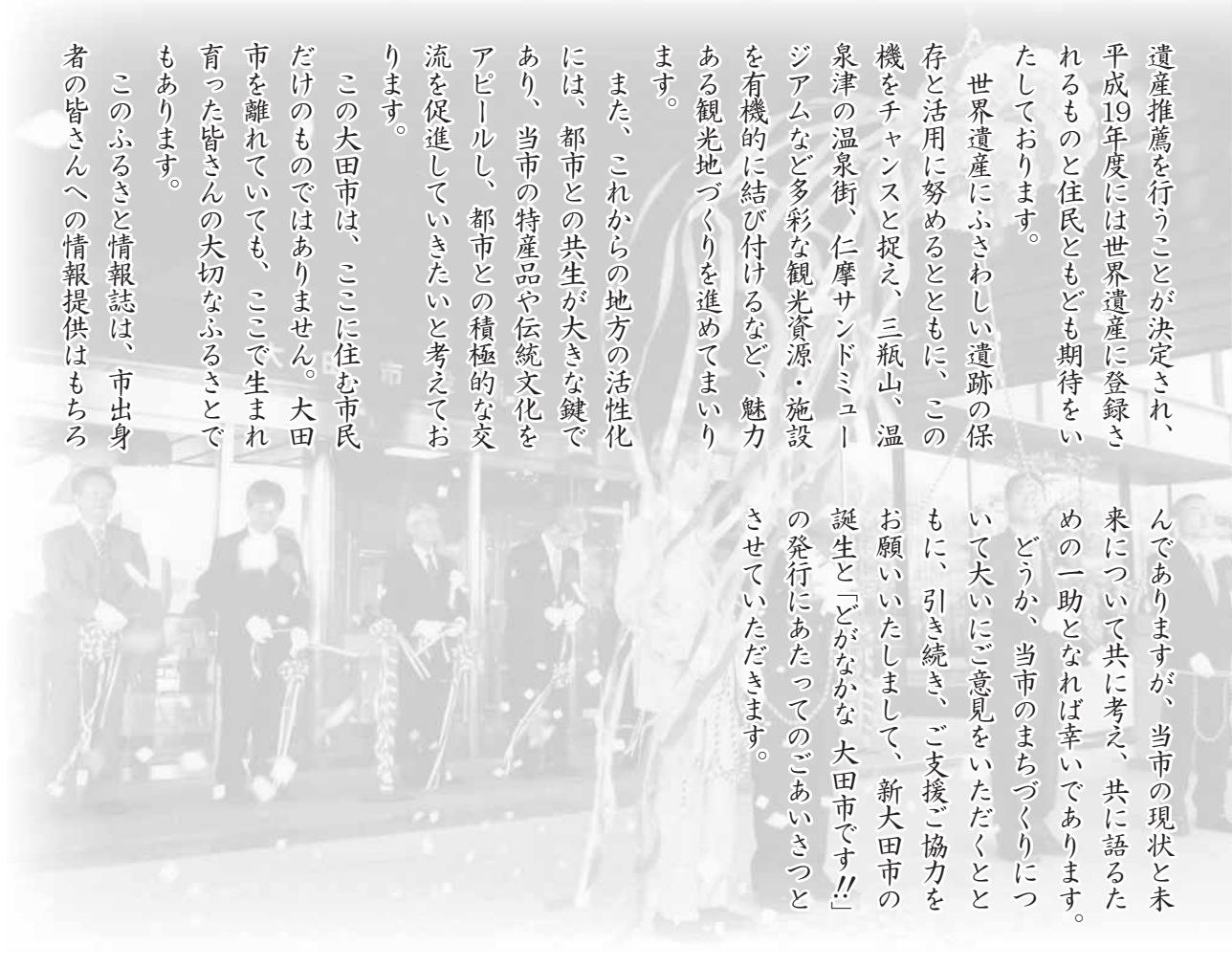
また、これからの地方の活性化には、都市との共生が大きな鍵であり、当市の特産品や伝統文化をアピールし、都市との積極的な交流を促進していきたいと考えております。

この大田市は、ここに住む市民だけのものではありません。大田市を離れていても、ここで生まれ育った皆さんの大切なふるさとでもあります。

このふるさと情報誌は、市出身者の皆さんへの情報提供はもちろ

んでありますが、当市の現状と未来について共に考え、共に語るための一助となれば幸いです。

どうか、当市のまちづくりについて大いにご意見をいただくとともに、引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。新大田市の誕生と「どがなかなか大田市です!!」の発行にあたってのごあいさつとさせていただきます。



# 石見銀山協働会議 誕生!!



東京大学大学院西村幸夫教授の基調講演

合い、なおかつ住民と行政が同じ目標に向かって「協働」し、これからの石見銀山のまちづくりを担う計画とそれを着実に実行する体制をつくることを目的としています。

現在、協働会議では、参加した市民プランナーが「保全」、「発信」、「受入」、「活用」の4つの分科会に分かれ、全体会で抽出されたそれぞれの課題を解決するための「行動計画」の策定作業を行っています。

今年度中に全体の行動計画を取りまとめ、来年度以降は、計画を立案した「プランナー」が「プレイヤー」

本年6月、公募により集まった約200名の市民プランナーと行政職員（島根県及び大田市）により「石見銀山協働会議」が誕生しました。この石見銀山協働会議は、2年後に迫った石見銀山遺跡の世界遺産登録に向け、遺跡の保存・管理への取り組みは勿論のこと、遺跡を活用し地域の活性化に繋げるため、地域最大の資源である「人財」を結集し、より多くの関係者が知恵と力を出し



グループ討議の様子



活用分科会のフィールドワーク

こうした、計画の策定から実施まで「官」と「民」が協働し、ゼロから作り上げていく取り組みは、県内のみならず全国でも稀な取り組みとして注目を集めています。

石見銀山協働会議は、まさしく「石見銀山」をキーワードにした「新生大田市のまちづくり」へのチャレンジであり、住民参加を基調とした新たな行政スタイルの実現に向け大きな一歩を踏み出したといえます。

へと転身し、行政と連携を取りながら地域住民や各種団体の参加を促し、行動計画の実現に向けた具体的なアクションを起こしていくこととしています。また、行動計画立案後の石見銀山協働会議は、行動計画の進捗状況を管理するとともに、行政と密に連絡を取りながら、石見銀山遺跡に関係した様々な取り組みをコーディネートする中核組織として引き続き存続していく予定です。

## ◆問い合わせ

大田市役所総合政策部石見銀山課

TEL : 0854-82-1600 (代表)

FAX : 0854-82-9156 (直通)

e-mail : kyodo@iwamigin.jp

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.iwamigin.jp/ohda/kyoudoukaigi/>

# 巧みな技で鏝絵を創作!!

やりたい時に、やりたいように創る 石州左官

松浦満幸さん(仁摩町)

皆さんは、鏝絵(こてえ)をご存知ですか。鏝絵とは、左官が色漆喰(しつくい)を使い、民家、土蔵や社寺の白壁に、動植物などを描いたレリーフのことをいいます。石見地方出身の石州左官の技術は高く、明治時代から昭和初期にかけての名作が国会議事堂や東宮御所など全国に残されています。現代の鏝絵作家・左官の松浦満幸さんを尋ねてみました。

## 鏝絵との出会い

仁摩町馬路の松浦満幸さんは、左官仕事のかたわら鏝絵の創作に励んでいます。石州左官と呼ばれる松浦さんは、「昔の石州左官は、朝早くから夜遅くまで寝る間を惜しんで働いたと言われていたが、自分はそんなことなかったなあ。仕事が大儀な時もあったし。だから、石州左官とは言えんかもしれんなあ」と。

なあ」と田舎に帰ることを決意し、39歳の時にふるさとの馬路へ帰ってきました。そんな折に、たまたま鏝絵の展示を目にして「自分にも出来るかもしれないなあ、やってみようか」という軽い気持ちで、地元の仲間たちと鏝絵をつくり始めました。

今では、伝統ある鏝絵の技や魅力を伝えていくため、地元の人達を対象に鏝絵教室を開催するなど、子どもから大人まで鏝絵を体験できる活動を行っています。

馬路の中学校を卒業後、左官になろうと大阪へ行き、忙しい日々を送っていましたが、次第に左官の仕事も少なくなり、「こんな状態なら、馬路で左官仕事をしても同じだ



松浦満幸さん

## 鏝絵はライフワーク

松浦さんの一作目は馬路満行寺にある『天人』で、地元の協力もあり、約2ヶ月で完成しました。

2作目は、馬路の産と伝わる名馬『池月』を作品にしました。馬の立体感を出すため、竹に小さい紐を付け、漆喰(しつくい)を塗る、細かい作業を何度も繰り返し、完成した名馬は実に見事なものです。「人前にさらすということになる責任が出てくる。自分が納得しないものが出来てもいけない」と作品にこだわりを持ち、納得のいくまで作り直します。

松浦さんは、これからも仕事をやり

ながら鏝絵づくりを続けていきたいと話します。鏝絵は決して趣味でもなく、仕事でもない。「やりたい時にやって、やりたいようにやる」、遊び心が興じて今の鏝絵があるといいます。



2作目の作品 馬路 高山会館にある名馬「池月」

## 鏝絵サミットにも参加

11月12日、13日に市内「あすてらす」で「全国鏝絵サミット・インしまね」が開催されました。2日間にわたり、全国の事例発表、子どもを対象とした左官・漆喰教室、市内に点在する鏝絵のツアー等が行われました。参加者からは「改めて石州左官の技術の高さを実感した」などの声が寄せられました。

松浦さんはサミットの中で、鏝絵の創作実演を行い、自慢の腕前を披露しました。後で話を聞くと、「緊張するけなあ、手が震えたわ」と笑って話していました。



鏝絵づくりに挑戦する小学生

このコーナーでは  
「大田市」で活躍  
紹介します

輝く

## 念願のカフェ

静かな温泉街の中にあるお店の雰囲気は昭和の時代を思わせませす。懐かしい感じのガラス戸を開けて店内に入ると、待っていてくれたのが、小川知興さん（30歳）です。

小川さんは、3年前に家業である小川商店を継ぐため、妻の雅代さんとともに温泉津町へUターンしました。学生時代からカフェでアルバイトをし、「30歳になるまでに自分のカフェを持ちたい！」という夢を持ち続け、昨年6月に念願のカフェ『路庵』をオープンしました。お店の名前は、道端にたずむ風流な建物という意味から名付けたそうです。

路庵は、100種類以上の焼酎が並

温泉津の温泉街を歩いていると、ちよつとハイカラなお店『路庵（ろあん）』があります。路庵は、町並み保存の指定を受けた同地区で、Uターンをした小川知興さんが古民家を保存改修してカフェとしてオープンしました。

小川さんの熱い想いが実現し、静かな町中に新たな憩いのスポットが誕生しました。路庵で、小川さんの「故郷へのこだわり」を聞いてみました。

ぶカウンターと、こだわりの調度品が印象的なお店で、小川さんは本業のかたわら、このカフェの店長もしています。家具類は学生時代から買い揃えていたものもあります。



知興さんと雅代さん

## 仲間の協力

オープンまでには仲間の協力がありました。温泉津の若者で作るまちづくりグループ「温泉津ものづくりネットワーク」を立ち上げ、メンバー達とともに、温泉津の陶土を使って焼いたコーヒーカップや焼酎の湯割呑、畳縁の素材のコースターなど「温泉津に由来のもの」を作り、カフェで使っています。

また、2人の従業員もUターン者で、この町の魅力にひかれ、温泉津町にやって来ました。

## 故郷へのこだわり

路庵は建物自体にも、こだわりがあります。重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業の第1号として民家を修理したものです。修理は文化庁の指導を受けながら進められ、使える部材はそのまま利用し、屋根瓦も混ぜ葺きにするなど、歴史情緒のある町並みにあわせ、落ち着いた雰囲気になりました。

最後に、路庵で焼酎を出す理由を教えてくださいました。「明治や大正時代、北前船で温泉津焼の『はんど（水がめ）』を九州の有名な焼酎の蔵元に運んでい



木組みの美しい店内

この店にあるものにはすべて「物語」がある 小川知興さん（温泉水津町）

念願のカフェをオープン

### <一口メモ>

#### 温泉津地区の町並み保存

平成16年7月に温泉街を中心に温泉津地区が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。保存地区の分類は「港町・温泉町」です。全国で64番目、市内では大森銀山地区に続き2番目の選定になります。

今後、市内に2号店を計画中。「温泉津だけ、とか考えていません。僕の故郷はこの『大田市』ですから」と広い視野で地域を見つめています。

たんですよ。そのはんどは今でも使われていて、それで仕込んだ焼酎が、この温泉津に戻ってきてるんです」と、まるで自分のことのように熱く語りま

# 起業家が誕生

## みんなが地域産業に活力を

大田市では、貴重な財産である「石見銀山」の平成19年の世界遺産登録を目指す中、「石見銀山」をキーワードに地域資源を活かした産業や観光の振興を図ることをしています。

### 取り組み

今年6月には、行政と経済団体等で大田地域雇用創出促進協議会を立ち上げ、まちづくりや産業振興を担う「ひとつづくり」と「雇用創出」に取り組んでいます。

ひとつは、石見銀山に来ていただくお客様を最高のおもてなしで迎えることができるよう、観光ガイドの養成や旅館などのサービス業に関する従業員の研修を行っています。また、良質の粘土と匠の技術で全国に誇れる石州瓦をはじめとする地域資源を活かした産業の振興のため、商品開発や市場開拓に向けた研修を進めています。

そして大田市には、景観にマッチし、風土に合った良質な建築物が多く残っています。職人の確かな知恵と卓越した伝統技術を傳承していくため、人材の育成や古民家の移築・再利用に取り組んでいます。

匠の技の承継と育成研修に参加した受講生は、「日本の風土に木造住宅が、いかに理にかなっているか改めて考えさせられた」と感想。

### 起業家1号誕生

また、この取り組みにより、第1号の起業家が誕生しました。仁摩町の大田地区の高齢者を中心にした「大田竹取物語」という組織です。この会社では地域資源である「竹」を利用した商品開発を行い、今後の活動が期待されます。

これらの取り組みについては、厚生労働省の委託を受けてパッケージ事業として実施しています。

## 推進イメージ

### ●第1の柱

石見銀山のホスピタリティを高め起業や商品開発を担う人材の育成

- 観光ガイドやトレッキングガイド等の養成
- 接遇・ホスピタリティの醸成と外国語の習得
- 起業や創業、商品開発を担う人材づくり
- 高齢者対応と高齢者を活かした事業展開など

### ●第2の柱

石州瓦等ものづくり産業の競争力の強化を担う人材の育成

- 営業戦略、広告戦略等ものづくり産業の競争力強化
- 新商品開発とブランド化
- 体験型観光など産業観光のあり方研究など

### ●第3の柱

建築大工・左官等の匠の技の継承と育成

- 建築（大工・左官）技術の基礎講習と実技演習
- 木造建築物の構造（耐震性や耐久性）にかかる研修と実技演習
- 古民家利活用ワークショップなど

地域経済の活性化と雇用創出に向けて様々な講座が開催されています。

### ●第4の取り組み

地域内企業や観光資源等の情報発信

人材育成と雇用創出

# 新たな一年がスタート

## 年越しイベント「時の祭典」



世界一の一年計砂時計「砂暦」  
(高さ 5.2 m、砂の量 1 t)

仁摩町天河内にある仁摩サンドミュージアムで、毎年大晦日に年越しイベント「時の祭典」が開催されます。

このイベントは、サンドミュージアムのシンボルである一年計砂時計『砂暦』を新年の訪れとともにぐるりと回転させ、新たな年の門出を祝うもので、平成2年の大晦日から行われています。

この「時の祭典」のメインイベントである「砂時計の回転綱引き」は、公募で集まった新年の年男・年女108人が砂時計につながる大綱を引き、巨大な砂時計を回転させます。

また、砂時計を回転し新年を迎えると同時に、およそ800発の大花火が真冬の空に大輪の花を咲かせます。この光景

は、仁摩の冬の風物詩となっています。

当日は、綱引きイベントのほかにもストリートミュージシャンによる野外ライブやゲームなど、様々な催しが用意されています。また、会場では、そばや豚汁のふるまひも行われます。

ふるさとでいつもと違う新年を迎えてみませんか。

### ◆問い合わせ

仁摩サンドミュージアム

電話 0854・88・3776



回転綱引きの様子

### シリーズ



## 新 石見銀山 ⑦

### 矢滝城跡からの眺望

私は毎年、祖式町矢滝と温泉津町西田にまたがる中世の山城「矢滝城跡」に登っています。

標高は、634m、360度のパノラマ。

今年は10月中旬に、祖式町の方々が登山道や頂上の美化作業をされたので、いっしょに草刈りや枝打ちをして良い汗を流しました。

参加されている地元の方の中には、戦後、この山の頂上にアメリカ軍の中継基地があった頃に食料や水を運んでいた方、ひと山越えた隣の西田集落へ山越えし通った方々もいます。作業後は、当時の山城跡の風情、

例えば主郭や堀切の跡、古い往還の道などの話で「生きた」歴史を体感できました。あらためて、頂上から石見銀山の全体を見渡すと、戦国時代から第2次世界大戦後までの500年間が思い起こされます。

矢滝城跡は、日頃より地元の方が

日常的な管理をしておられ、登山には最適です。また、このような機会をとらえ、登ってみることもお勧めします。

美化作業後、矢滝城跡越し(右手前)に日本海を望む。



文献によれば、享祿元年(1528)、戦国大名大内義隆が銀を産出する仙ノ山から一里ほど南の矢滝城を銀山防備の拠点としたと記されている。眼下には温泉津と柵内を結ぶ銀山街道が走る。

# ふるさととは **今**

## 秋の風物詩～ヨズクハデ

ヨズクハデは、温泉津町の西田地区に伝わる全国でも類例がない農事風習です。

伝説によると神代の昔、神様から魚網を干す方法を教えられたことが始まりとされており、このハデ（稲架け）の形が巨大なフクロウ（ヨズク）が羽を休めてうずくまっているように見えることから、この呼び名が付いたと伝えられています。

銀山柵内（大森町）と温泉津の港を結ぶ街道沿いにあり、山と海の交流を物語る、銀山街道ならではの興味深い伝承です。



### 温泉津町フォトコンテスト作品 「収穫の秋」 江川安夫さん(浜田市)

●編集部からお知らせ  
新生大田市の誕生とともに、「どがなかな 大田市です!!」も創刊号として新たにスタートすることになりました。表紙の写真は、三瓶山(中央)・龍源寺間歩(左上)・やきもの里(右上)・仁摩サンドミュージアム(右下)です。これまでのふるさと情報誌では、大田市内にある小学校(今昔)を順を追って紹介してきましたが、今回は、情報誌の創刊号ということで、小学校の掲載はお休みさせていただきました。次号からは、温泉津、仁摩地区の小学校を含め、掲載していきますのでお楽しみに。

●編集後記  
それは小さくも幼なじみたち手づくりの心温まるコンサートだった。  
旧大田市ふるさと情報誌第9号の「外から」欄で紹介されたピアニスト巨勢典子さんが、8枚目の自作アルバム「ララバイ」を携え、今回で3回目となる地元でのコンサート。爽やかさを基本に、この春から作り上げたとの弁だったが、なまめかしさや重さも感じた。  
取められた一曲に「大切な人」がある。支えられ、支え合うことの大切さを教えてくれたひととき。ララバイ(子守唄)は胎動につながる。小さくも確かな足取りを刻みたい。  
(た)

## イベント情報

- ◆年越しイベント「時の祭典」  
とき 平成17年12月31日(土) 午後9時30分より  
ところ 仁摩サンドミュージアム(仁摩町天河内)
- ◆新春神楽  
とき 平成18年1月3日(火) 午後5時00分より  
ところ 温泉津コミュニティセンター(温泉津町小浜)
- ◆大田市成人式  
とき 平成18年1月4日(水) 午前10時45分より  
ところ 大田市民会館(大田町大田)
- ◆宅野子ども神楽発表会  
とき 平成18年2月11日(土) 午前9時30分より  
ところ 仁摩伝統芸能伝承館(仁摩町宅野)
- ◆御日待祭り  
とき 平成18年2月14日(火) 午後7時30分より  
ところ 巖島神社(温泉津町小浜)